

現状分析

全国学力・学習状況調査結果

ICTの活用状況 児童生徒質問紙より

小学校6年生 ※都道府県は整数値、全国は小数値 (%)

学年	教科	山形	全国	全国との差
小6	国語	65	65.6	▲0.6
	算数	61	63.2	▲2.2
	理科	63	63.3	▲0.3

中学校3年生 ※都道府県は整数値、全国は小数値 (%)

学年	教科	山形	全国	全国との差
中3	国語	70	69.0	1.0
	数学	52	51.4	0.6
	理科	50	49.3	0.7
中3(R1)	英語	53	56.0	▲3.0

《課題》学んだことを様々な場面で活用できるように言語活動を充実させる必要がある。

分析 ・多くの児童が、飲み物の量と果汁の割合の関係を理解できていない。

例) R4 小学校数学②(3) 果汁が含まれている飲み物の量が変わっても割合は変わらないことを理解している

(3) りんごの果汁が20%ふくまれている飲み物が500 mLあります。この飲み物を2人で等しく分けると、1人分は250 mLになります。

250 mLの飲み物にふくまれている果汁の割合について、次のように求めます。

250 mLは、500 mLの $\frac{1}{2}$ の量です。

このとき、%

上の□にあてはまる文を、下の1から3までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合も $\frac{1}{2}$ になります。
- 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合は2倍になります。
- 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になっても、果汁の割合は変わりません。

正答 3
平均正答率 17.2% (山形)、21.4% (全国) ⇒ **全国比-4.2**

多かった誤答 1
70.0% (山形)
・飲み物を等しく分けるとき、飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると同様に果汁の割合も $\frac{1}{2}$ になると捉えている。

《課題》割合を日常の具体的な場面に関連付けて理解できるようにすることが必要である。

分析 ・説明する力は全国と比べるとやや低い。
・昨年度と同じ出題傾向の問題と比べると改善傾向がみられる。

例) R4 中学校数学⑥(2) 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる

(2) 雄太さんは、 $2+6=8$ のように、同じ2つの偶数の和のほかに、4の倍数になることがあることから、さらにくわしく調べてみました。

$2+6=8=4 \times 2$
 $6+2=8=4 \times 2$
 $10+14=24=4 \times 6$
 $18+32=50=4 \times 13$

そして、次のように予想しました。

予想2
差が4である2つの偶数の和は、4の倍数になる。

平均正答率 48.2% (山形)、48.7% (全国) ⇒ **全国比-0.5**

例) R3 中学校数学⑥(2) 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる
平均正答率 59.4% (山形)、61.8% (全国) ⇒ **全国比-2.4**

《課題》事柄が成り立つ理由を根拠を明確にして説明できるようにすることが必要である。

分析 ・ICTが「学習の役に立つ」と感じている児童生徒が多い。
・授業の中で、ICTを活用して友だちと意見を交換したり、考えをまとめて発表したりする場面は少ない。

	小6	中3
学習の中でICT機器を使うのは勉強の役に立つ	95.6 (+1.2)	92.6 (±0)
授業中自分で調べる場面で、週1回以上使っている	71.9 (▲4.2)	67.7 (▲4.0)
学級の友達と意見を交換する場面で、週1回以上使っている	41.2 (▲8.2)	35.2 (▲8.3)
自分の考えをまとめ、発表する場面で、週1回以上使っている	39.8 (▲5.4)	27.4 (▲7.9)

《課題》ICT活用により「個別学習、協働学習」を充実させる必要がある。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実による、算数・数学、英語の学力向上

【算数・数学】

- 生活経験や数学の事象を大切にしたい学習過程の充実
- 説明する力を付ける授業づくり



【英語】

- 自分の考えや気持ちを、英語で話す力を付ける授業づくり



【ICTの活用】

- 効果的・効率的な活用促進

単元において付けたい力が明確で、習得・活用・探究のバランスのとれた授業

今後の対応

【推進会議委員長メッセージ】

- 授業づくりで重視することをメッセージとして発信

【指導力向上に係る好事例紹介】

- 問題発見・解決の過程を重視した授業研究の実践等を紹介 <新規>

【評価問題の活用】

- ◎算数・数学評価問題シート (小4～中3)
 - 教師用には授業改善のポイントを記載
 - 児童生徒用には解説動画のQRコード付き
- ◎英語評価問題シート (中1, 2)
 - 「聞くこと」テストの音声データを作成

学 校

- 学力向上アクションプランを核とした強固な授業改善PDCAサイクルの確立



【児童生徒向け資料の活用】

- ◎学習意欲の向上を図るための資料を作成・配付 <新規>

【チェックシートの活用】

- 事前に学校の課題を把握するとともに、複数回の学校訪問支援により、授業改善等のポイントを焦点化

◆授業づくりで大切にしたい視点

- 育成する資質・能力の見定め ○教科の特質に応じた見方・考え方
- 適切な評価と個に応じた支援 ○学びの見取り
- ◆学校組織として大切にしたい視点
 - 「付けたい力」を視点とした日常的な語り合い
 - 協働的に教材研究を行う校内組織・体制の整備

【訪問校の好事例紹介】

- 授業改善の取り組みや、アクションプランの活用における好事例をまとめ、クラウド上で発信 <一部新規>

学力向上推進会議・教科部会

大学教授・小中校長会代表・市町村教育委員会代表等

連携して学校を支援

学力向上支援チーム

学力支援アドバイザー(退職校長等)・教育事務所指導主事